

1. 背景

1.1 社会におけるメールマガジンの役割

インターネット，携帯電話の普及に伴い，電子メール（以下メール）は教育，ビジネス，またその他の日常生活における情報伝達手段として幅広く活用され，重要な役割を担っている。

メールの活用方法の一つとして「メールマガジン」が挙げられる。一部有料で発行しているものがあるが，無料のものも多数あり，メールマガジンのポータルサイトも存在している。メールマガジンポータルサイトの代表例として「まぐまぐ」，「melma!」，「Macky!」，「めろんぱん」，「カプライト」，「めるめる・net」などがある。ニュースやエンターテイメント，スポーツ，レジャーなどのカテゴリに分類され，好きなメールマガジンをいくつでも購読することが可能である。

2001年6月14日より発行された「小泉内閣メールマガジン」は，創刊から2週目にして発行部数180万部を達成した。また，首相官邸だけでなく，他省庁，政府関連機関でもメールマガジンの配信を行っている（表1）。

このようにメールマガジンは趣味や娯楽だけでなく，国政や行政の動向などの情報収集方法としても活用されている。

1.2 メールマガジンの教育利用

メールマガジンは購読者にとっては情報収集の手段であり，発行者にとっては情報公開・提供の手段である。

教育の分野では，新聞社，出版社，NPO法人などが授業指導のヒントやアイデア，研修会の情報，教育委員会の動きなどの情報を提供する例がある（表2）。

また，教育機関である大学が，広報活動の一部としてメールマガジンを発行しているケースもある。研究活動やイベント案内，入試などといった情報を提供することで，受験生に，大学選択の参考にしてもらえることを目的としてメールマガジンを発行している大学もある（表3）。

園田学園女子大学は2002年度より，情報コミュニケーション学科が新設された。それにより本学科でもメールマガジンを発行することになり，創刊準備号を2001年12月25日に発行し，現在も継続している。以下が同学科メールマガジン発行の主旨である。

“2002年度から新しく開設された情報コミュニケーション学科では，情報コミュニケーション関連の読み物，学科の様子やメッセージなどを定期的にお届けするためにメールマガジン（メルマガ）の発行をしています。この学科は，文系の視点を持ったIT技術者の養成を目指しています。高校生の皆様はじめ，多くの皆様に読んでいただければと思っています。”（園田学園女子大学学外ウェブページより引用）

1.3 メールマガジンポータルサイトの運営システムの特徴

前述したメールマガジンポータルサイトは，メールマガジン発行希望者が，好きなカテゴリのメールマガジンを発行可能で，購読者が好きなメールマガジンを購読できるシステムとなっている。そして，携帯電話とパソコンではメールの受信可能文字数が異なるなどの理由から，携帯電話向けとパソコン向けの二種類を用意しているサイトが多い。発行，購読の手続きの仕方は同じであるが，システムが二種類あるのは，からである。発行者と購読者はあらかじめ，受信媒体がどちらであるかを決めておき，それぞれのシステムを利用している。

(1) 発行方法

ポータルサイトでのメールマガジン発行までの流れは，以下の通りである。

発行希望者による発行申請。

- ・発行希望者の個人情報登録
- ・発行するメールマガジンのカテゴリ選択
- ・発行するメールマガジンの内容の説明などポータルサイトによる申請内容の審査。

審査通過後，サイトから発行IDを取得。

発行準備。原稿をテキストエディタなどで作成。

表 1 政府発行のメールマガジン

発行機関・メールマガジン名	内容
首相官邸「小泉内閣メールマガジン」	小泉総理及び閣僚からのメッセージ，内閣の政策情報などを配信。
国土交通省「国会等の移転メールマガジン」	国会等の移転全般の話題を提供。
農林水産省「農林水産省メールマガジン」	食料，農林水産業，農山漁村についてのさまざまな情報を提供。
外務省「ODA メールマガジン」	最近の ODA を巡る動きや，援助の現場で働いている人々による現地レポートを配信。
郵政事業庁「Kampo・メールマガジン」	経済・育児・健康・生活・総合トレンドのそれぞれ異なったテーマの，コラムやエッセイ，身近なニュースを配信。

表 2 教育に関するメールマガジン

発行団体名・メールマガジン名	内容
教育情報新聞「Mail-Press」	教員，保護者等に役立つ情報を配信。
現代教育新聞「総合的な学習 NEWS LETTER」	総合的な学習実践事例紹介，交流学习募集の案内など授業へのヒントやアイデアを掲載。
三省堂教科書出版部「EIGOMAIL-MAGAZINE」	英語のコミュニケーション能力を伸ばすにはどうしたらよいか，国際理解をどう進めればよいかなどの情報を配信。
NES（新教育機構）「NES 通信」	教育 N P O 法人のメルマガ。教育情報やお知らせ等を配信。
毎日新聞「Edu Mail」	教育取材網を通して，学校現場の出来事や教育行政の動向を配信。
21 世紀教育研究所「for your future」	子どもの教育情報提供や，学級崩壊に悩む教師や不登校の子を持つ保護者の助けになるサイトの紹介など。
読売新聞「よみうり教育メール」	読売新聞各地域版に掲載された教育記事を配信。

表 3 広報活動を目的としたメールマガジン発行をしている大学

発行大学	メールマガジン名	発行開始年月日
大阪大学	大阪大学メールマガジン	2002 年 4 月 24 日
平安女学院大学	アグネス e-レター	2002 年 5 月 10 日
北陸大学	北陸大学 Mail マガジン	2002 年 5 月 16 日
札幌学院大学	Let's Together!	2002 年 5 月 31 日
神戸女学院大学	w@tch!	2002 年 7 月 1 日
関西大学	Kan-Dai Hot News!	2002 年 9 月 19 日
大阪明浄大学	大阪明浄大学受験サポートマガジン	2002 年 9 月 19 日
関西学院大学	関学受験生応援メールマガジン	2002 年 10 月 9 日

指定されているマガジン登録ウェブ画面にアクセス。その際、取得した ID が必要。

件名と作成した原稿，配送日時をウェブ画面で保存。

指定日時に自動配信。

サイトによっては，発行人本人がウェブページによるメールマガジン発行の宣伝を行うことを義務づけている。また，以降の発行作業をメーカーによって行うサービスを提供しているサイトもある。

(2) 登録方法

購読の際は一般に以下の登録方法が用いられている。

- ・購読したいメールマガジンを選択。
- ・メールアドレスを入力後「登録」ボタンを選択。

(3) 解除方法

登録に対し，購読を解除するには一般に以下の方法が用いられている。

- ・購読解除したいメールマガジンを選択。
- ・メールアドレスを入力後「解除」ボタンを選択。

解除方法については，配信されたメールマガジン本文中に示されている URL にアクセスするだけで，解除できるサイトもある。

(4) 過去のメールマガジンの公開

サイトによっては，過去のメールマガジンの公開を支援しているシステムもある。公開方法としては，バックナンバーをリスト化したウェブ画面にて，購読者が自由に閲覧可能となっている。その場合，公開・非公開は発行者の意志によるものである。

(5) 購読者の個人情報管理

購読者の個人情報の扱いにも特徴がある。購読登録はメールアドレスのみで行い，発行者には購読者のメールアドレスを非公開にしている。これは，個人情報の漏洩を防ぐためである。

2. 研究の目的

情報コミュニケーション学科は，高校生や，学科の研究基盤の一つである情報教育に興味のある

人を購読対象としたメールマガジン発行のニーズがあった。そこで本研究では，購読対象者に応じ，学科がメールマガジンを発行するためのメールマガジン発行システムの開発を行うこととした。

また，開発したシステムを用いて，実際に運用を行う活動を通して，明らかになった知見をまとめることとした。

3. 学科メールマガジン発行システムのニーズ

本システムを開発するにあたり，オープンキャンパスに来学した当学科受験希望の高校生を対象に，事前にアンケートを行ったところ，メールマガジンを購読するメールアドレスに，全体の約 4 割が携帯電話のメールアドレスを記入していた。このことも踏まえて，学科メールマガジンを発行するにあたって，発行システムのニーズを以下にまとめた。

メールマガジンの登録や購読，過去のメールマガジン購読は，利用者の状況から，パソコン及び携帯電話で行えるようにしたい。

発行者がシステムの仕組みを知らなくても，発行のための準備作業が行えるようにしたい。複数人でメールマガジン原稿の登録作業が行えるよう，セキュリティの高いものにしたい。発行者は，購読者の様子（購読登録・解除・過去のメールマガジン閲覧）を把握したい。

4. メールマガジンポータルサイトの問題点

メールマガジンを発行するだけならば，既存のメールマガジンポータルサイトを利用するだけで十分である。しかし，そのようなポータルサイトでは，前章で述べた本学科メールマガジン発行のニーズを満たすには不十分である。

4.1 登録・解除・過去のメールマガジンの購読

メールマガジンポータルサイトでは，携帯電話からでもパソコンからでも，メールマガジンの登

録・購読は可能になっている所が多い。しかし、それぞれが独立して動いているので、携帯電話やパソコンの両方のユーザーに発行したい場合、発行者はそれぞれのシステムを利用する手続きをとらなければならない。また、購読者が、携帯電話で受信したいのに、誤ってパソコン向けのメールマガジンシステムで登録してしまったら、不本意なメールマガジンが送られてきてしまう。

購読者は登録・解除の際、メールアドレスを入力するのみである上に、発行者にはそのメールアドレスさえもわからない。

また、過去のメールマガジンの公開は、ウェブ画面であるため、誰もが好きなときに閲覧できてしまう。そのようなシステムでは、誰が・いつ・何をしたかという、購読者の登録・解除・過去のメールマガジン購読の様子を、発行者は把握することができない。

4.2 発行準備作業

複数人で発行準備を行うには、メールマガジンポータルサイトのように、ウェブ画面で作成原稿

を登録する方法であれば可能である。しかし、基本は一人で発行することを想定しているため、一メールマガジンに対して発行IDは一つである。複数人でIDを共有してもよいが、その際の責任は全て発行申請者である。IDの共有は、セキュリティ上、問題がある。

5. 開発したメールマガジン発行システム

Windows2000 サーバ上に IIS (WWW サーバ) の CGI の言語として ASP (VBScript) または WSH (同) を用い、Access の mdb ファイルを ADO 接続している。また、メール送信などに、BASP コンポーネントを利用している。

本システム利用対象者は、購読者、発行者である。購読者は高校生、または一般の方(学校教員、企業、大学生など)であり、発行者は本学の教員、または学生である。携帯電話からでもパソコンからでも操作できるように、ウェブ画面からの操作を主としている。本システムの構成は図1のようになる。

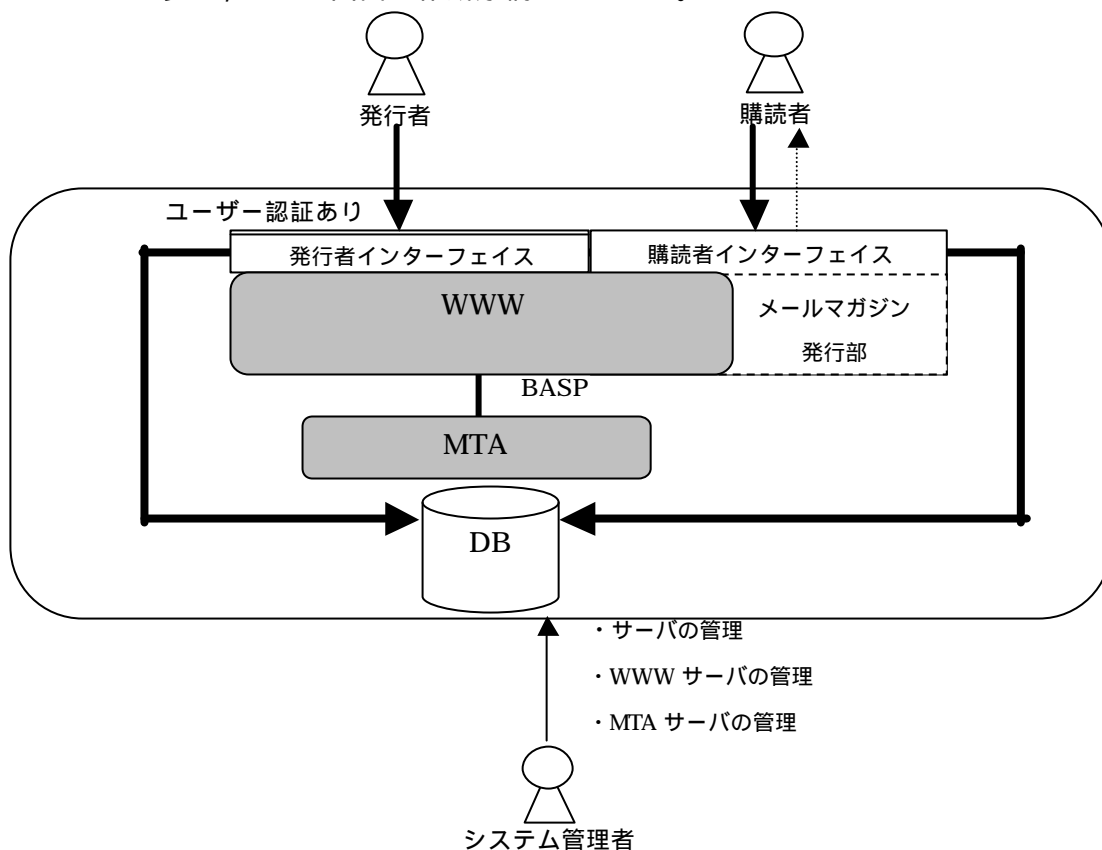


図1 利用者とシステムの関係

5.1 購読者インターフェイス

購読者インターフェイスは、図 2 の購読者の登録・解除を行う登録・解除部と、バックナンバーの発行を行うバックナンバー発行部、メールマガジンの発行をタスクスケジューラで行うメールマガジン発行部から構成されている。

(1) 購読登録・解除部

購読登録・解除では、購読者がウェブ画面から登録・解除を行うと、購読者テーブル(表 4)にデータの受け渡しがされ、登録・解除希望者、発行者に確認のメールを送信する(図 3)。

(a) 購読登録

購読希望者が、登録画面に名前・ふりがな・都道府県・学校名・メールアドレスを入力し、「登録」ボタンを押すと、入力されたメールアドレスのチェックを行う。メールアドレス欄に入力された文字列が、空白であったり、現在のメールアドレスの規則ではありえない文字列であれば、不正なアドレスであることをウェブ画面に表示する。名前・ふりがな・都道府県・学校名は空文字のチェックは行わないが、システムの都合上、入力文字列に「'」が含まれていれば、データベースに保存する前に「'」に変換するルールとした。

メールアドレスが不正な文字列でなければ、購読者テーブルに入力された情報が渡され、再度メールアドレスのチェックを行う。入力されたメールアドレスが、すでに購読者テーブル上にあるデータであれば、登録済みのアドレスであることをウェブ画面に表示する。なければ、同テーブルに、入力された情報を追加し、購読希望者、発行者に登録の確認メールを送信する。

(b) 購読解除

購読解除希望者が、解除画面にメールアドレスを入力し、「解除」ボタンを押すと、購読者テーブルに入力されたメールアドレスが渡され、メールアドレスのチェックを行う。入力されたメールアドレスが、同テーブル上になければ、未登録であることをウェブ画面に表示する。同テーブルにメールアドレスが存在していれば、「購読希望・非購読希望」フィールドを、Yes から No に書き換え

る。データの書き換えが済むと、購読解除希望者と発行者に解除確認のメールを送信する。

(2) メールマガジン発行部

本システムでは、携帯電話メールアドレスもパソコンメールアドレスも、データベース上で区分せずに管理している。メールマガジン発行時に、メールアドレスによって携帯電話であるかパソコンであるかを判断し、それぞれのメールマガジンを送る。

メールマガジン発行は、サーバの「タスクスケジューラ」で、毎日午後 11 時にメールマガジン発行プログラムを動かすことによって行っている。発行日の午前 0 時に発行するのが望ましかったが、1 月 1 日など挨拶メールの規制で、メール送信の

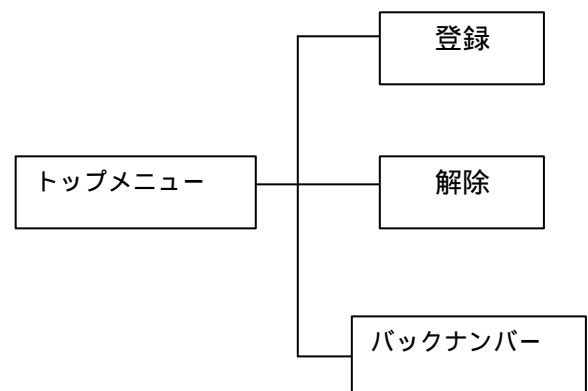


図 2 購読者インターフェイスの画面遷移

表 4 購読者テーブルのデザイン

フィールド	データ型	備考
id	オートナンバー型	主キー
名前	テキスト型	空白文字可
ふりがな	テキスト型	空白文字可
都道府県名	テキスト型	空白文字可
学校名	テキスト型	空白文字可
Eメール アドレス	テキスト型	空白文字不可
購読希望・ 非購読希望	Yes/No 型	既定値 = Yes 購読希望者 = Yes 非購読希望者 = No

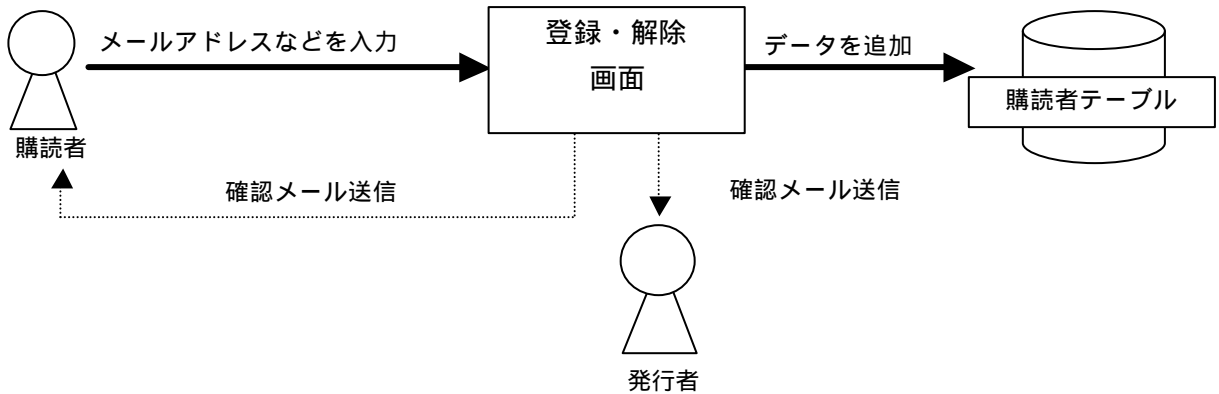


図 3 登録・解除の流れ

遅延が予想される日に、発行日が重なるといけないので、原稿テーブルで登録されている発行日の、1 日前の午後 11 時に、発行することとした。

まず、原稿テーブル(表 5)の発行日を検索し、本日の日付に 1 日足したものがないか探す(発行日 = 本日 + 1 日)。もし該当のものがなければシステムを終了させる。該当のものがあれば、次に購読者テーブルから購読希望者を探す。そして購読希望者のメールアドレスをみる。携帯電話のメールアドレスはドメイン名が限られており、決まっているため、ドメイン名から携帯電話のメールアドレスかそうでないかを判断する。携帯電話のメールアドレスのものは、件名に「i コミ」、本文に原稿テーブルの「携帯本文」を入れる。携帯電話以外(パソコン)のメールアドレスであれば、件名に原稿テーブルの「件名」、本文には同テーブルの「本文」を入れる。携帯電話とパソコンの件名を別に行っているのは、各携帯電話の規格により件名表示に対応していないものや、また、長い件名は表示しきれないものもあるためである。送信元のメールアドレスは mag@ggg.sonoda-u.ac.jp で、発行者がメンバーとなっているメーリングリストとし、返信への対応をした。

また、メールマガジンが発行されているかを確認するために mag2@ggg.sonoda-u.ac.jp に bcc で送信することとした(図 4)。

(3) バックナンバー発行部

バックナンバー発行は、購読者がウェブ画面からバックナンバーの取得を希望すると、原稿テーブルと購読者テーブルにデータの受け渡しが行われ、

希望者にバックナンバーを発行する(図 5)。

バックナンバー取得希望者が、バックナンバー画面で「取り寄せる号」を選択し、メールアドレスを入力後、「取り寄せる」ボタンを押す。すると、購読者テーブルに入力されたメールアドレスが渡され、メールアドレスのチェックを行う。入力されたメールアドレスが購読者テーブル上に存在していなければ、未登録であることをアナウンスし、登録するように促す。購読者テーブルにメールアドレスが存在していれば、希望者にバックナンバーを発行する。メールマガジン発行と同様に、送信確認アドレスにも bcc で送信する。また、入力

表 5 原稿テーブルのデザイン

フィールド	データ型	備考
id	オートナンバー型	主キー
件名	テキスト型	空白文字可
本文	メモ型	空白文字可
携帯本文	メモ型	空白文字可
発行日	日付/時刻型	空白文字不可

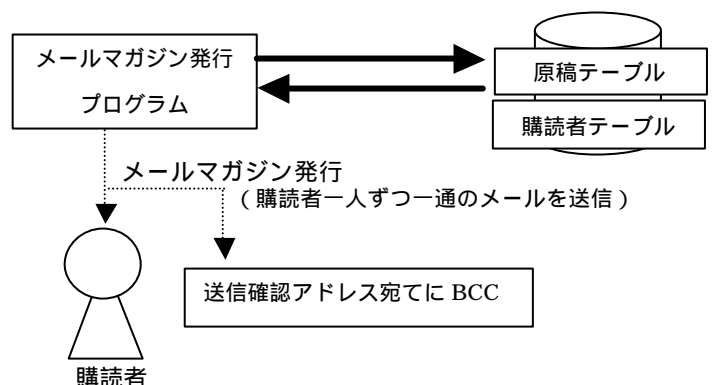


図 4 メールマガジン発行の流れ

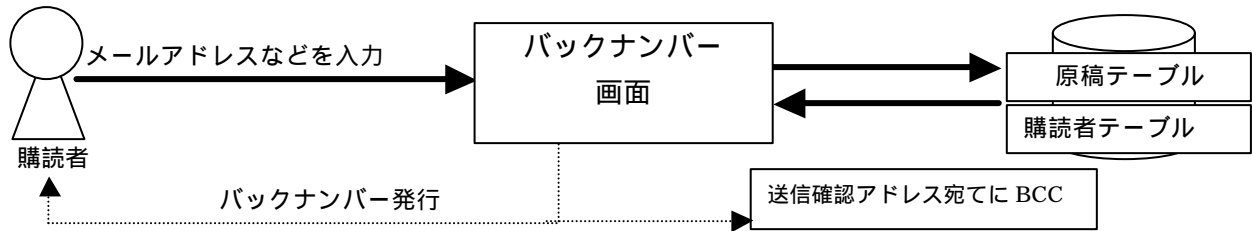


図5 バックナンバー発行の流れ

されたメールアドレスが携帯電話であるかどうか、メールマガジン発行と同様に、メールアドレスから判定し、それぞれのバックナンバーを発行する。

5.2 発行者インターフェイス

発行者インターフェイスは、原稿の登録・編集操作を行う原稿一覧登録編集部と、購読者の閲覧・登録・編集を行う購読者閲覧登録編集部、ログ閲覧 パスワードの変更から構成されている(図6)。

発行者がシステムの仕組みを知らなくても操作ができるよう、視覚的にシステムの状態が判別できるような画面表示にした。また、発行者インターフェイスでは発行者のみがアクセス可能なように、認証を行うようにした。

< 認証 >

認証方法は、IP 認証とユーザー認証とあるが、発行者の作業時間、場所を考え、ユーザー認証で行うことにした。WindowsNT の標準の認証は、ライセンスの関係上採用せず、インターネット上に公開されているプログラムを手本に、独自の認証方法とした(表6)。

発行者インターフェイスにアクセスしようとする時、認証のダイアログボックスが表示され、ユーザー認証を行う。

(1) 原稿一覧登録編集部

原稿の登録・編集は、発行者がウェブから原稿の登録を行うと、原稿テーブルに保存される(図7)。編集は、ウェブから原稿の選択をして行う(図8)。編集後の保存方法は、登録と同じ方法である。

(a) 原稿の登録

原稿登録編集画面(図9)で発行者が、件名、本文、携帯本文、発行日を入力し、「変更を保存」

ボタンを押すと、入力した内容が原稿テーブルに保存される。

(b) 原稿の編集

原稿の編集を行う場合、まず発行者は、原稿一覧画面(図10)で編集原稿を選ぶ。「ID」を選択すると、原稿テーブルに保存されているデータが表示される。編集終了後、「変更を保存」ボタンを押すと、入力した内容が原稿テーブルに保存される。

原稿一覧画面では、編集を本日中に済まさないもの(発行が本日)については水色で、発行日が過ぎたもの(発行済み)については灰色に、発行日が本日より先のものは白色の背景で表示するようにした。

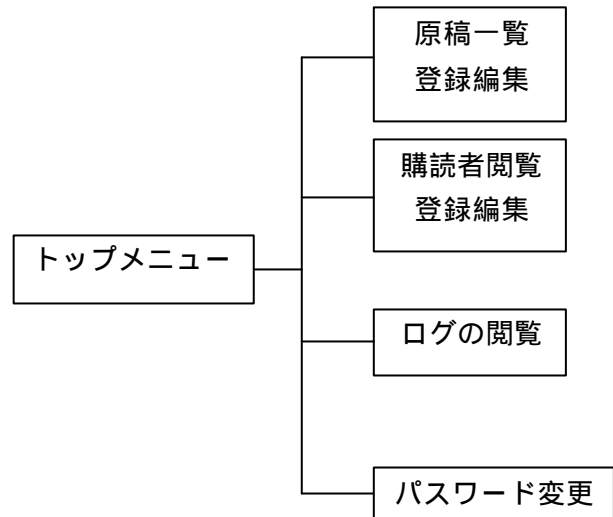


図6 発行者インターフェイスの画面遷移

表6 認証テーブルのデザイン

フィールド	データ型	備考
id	オートナンバー型	主キー
ユーザー名	テキスト型	空白文字不可
パスワード	テキスト型	空白文字不可

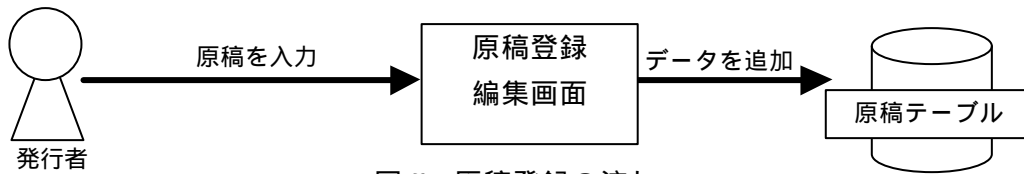


図 7 原稿登録の流れ

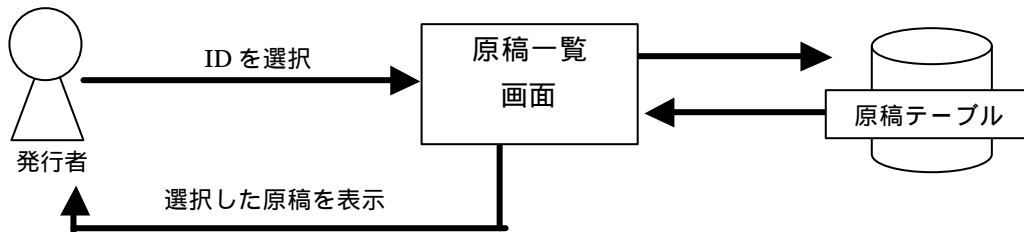


図 8 原稿編集の流れ

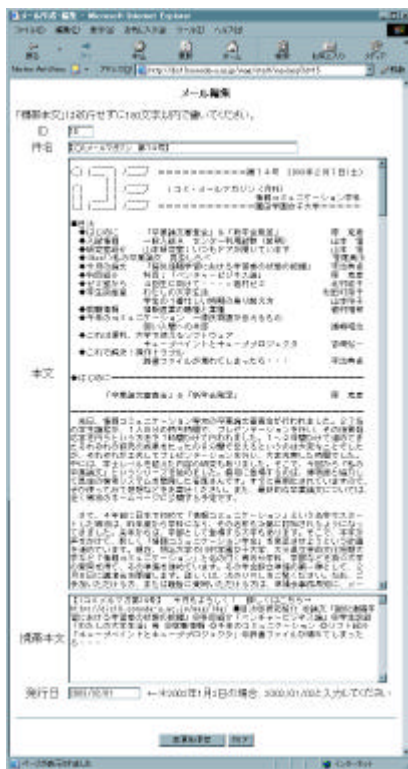


図 9 原稿登録編集画面

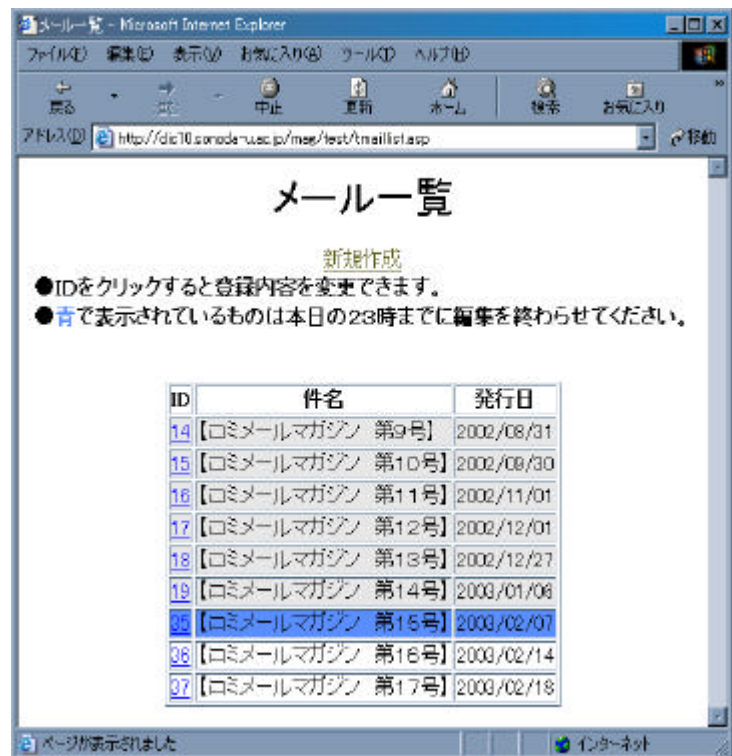


図 10 原稿一覧画面

(2) 購読者閲覧登録編集部

購読者の閲覧・登録・編集では、発行者がウェブから購読者の登録を行うと、購読者テーブルに保存される(図 11)。編集は、ウェブから購読者の選択をして行う(図 12)。編集後の保存方法は、登録と同じ方法である。

(a) 購読者の閲覧

購読者閲覧画面(図 13)では、購読中は、全体を黄色の背景とし、解除されたものは、白色を背

景とした。

(b) 購読者の登録

発行者による購読者登録は、購読者登録編集画面(図 14)で行う。名前、ふりがな、都道府県、学校名、メールアドレスをそれぞれの項目に入れ、「変更を保存」ボタンを押すと購読者テーブルに追加される。「送信する」「送信しない」は同テーブルの購読希望・非購読希望フィールドである。「送信する」は Yes、「送信しない」は No とした。

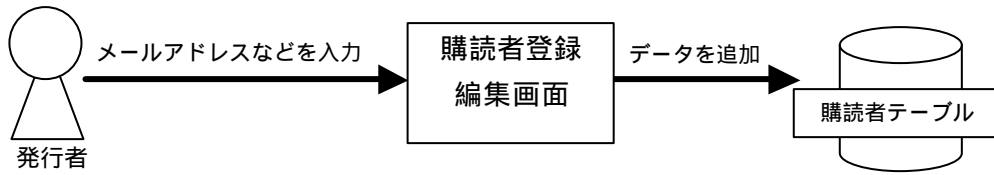


図 11 購読者登録の流れ

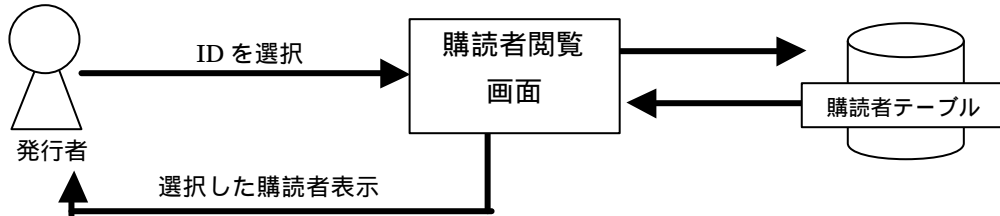


図 12 購読者編集の流れ

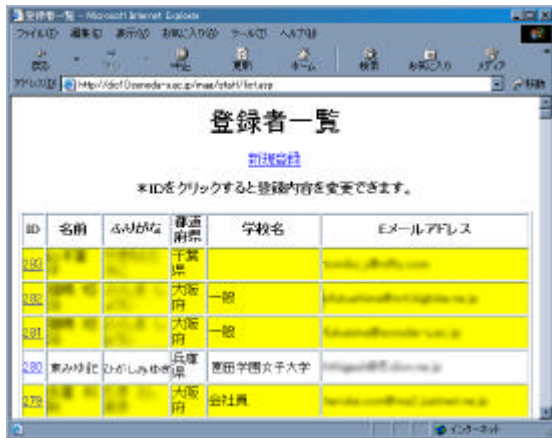


図 13 購読者閲覧画面

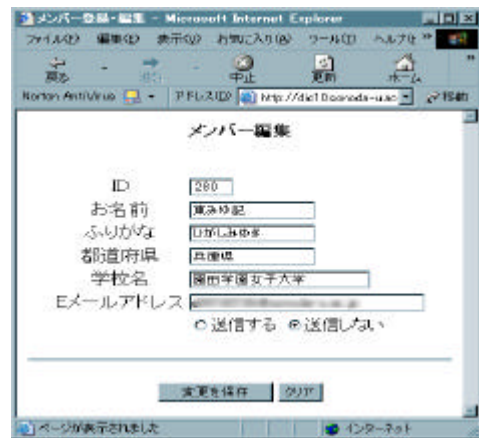


図 14 購読者登録編集画面

(c) 購読者の編集

購読者の編集は、購読者閲覧画面で編集対象者を選ぶ。画面中の「ID」欄の数字を選択すると、購読者テーブルに保存されているデータが表示される。編集終了後、「変更を保存」ボタンを押すと、入力した内容が、同テーブルに保存される。

(3) ログの閲覧

購読者インターフェイスでは、登録・解除・過去のメールマガジン購読の様子が、発行者にわかるよう、各画面の操作の記録をとる(表 7)。ログ閲覧画面(図 15)で、購読者の登録・解除・過去メールマガジンの購読の様子を見ることができる。

表 7 ログテーブルのデザイン

フィールド	データ型	備考
id	オートナンバー型	主キー
ユーザー名	テキスト型	空白文字可
IP アドレス	テキスト型	空白文字可
Proxy 情報	テキスト型	空白文字可
日時	テキスト型	空白文字可
操作内容	テキスト型	空白文字可

6. システムによって実現したこと

本システム開発によって実現したことを、以下にまとめる。



図 15 ログ閲覧画面

購読者インターフェイスをパソコン用，携帯電話用と分けるのではなく，メールマガジン，バックナンバー発行時にメールアドレスによってそれぞれの原稿を送ることとしたので，購読者はパソコンからでも携帯電話からでも購読登録・解除・過去のメールマガジンの購読が行えるようになった。

視覚的にシステムの状態を判別できるようウェブの表示を工夫したため，発行者がシステムの仕組みを知らなくても，発行のための準備作業が行えるようになった。

発行者インターフェイスは，アクセス時にユーザー認証を行うようにし，限定されたユーザー（発行者）のみ利用可能にしたため，複数人で発行作業が行え，セキュリティの高いものになった。

操作のログをウェブから閲覧できるようにしたため，発行者は，購読者の様子（登録・解除・過去のメールマガジン購読）を把握できるようになった。

7. システム運用にあたって

このように開発を進めつつ，2001年12月より本システムを運用し，メールマガジンを発行してきている。その経験より，メールマガジンを発行，運用するための注意点を述べる。

7.1 発行のスケジュール

本学科メールマガジンの原稿執筆者は，一人ではなく，複数の教員，複数の学生である。そのため発行準備をするには，原稿執筆を依頼，執筆者から集めた原稿の編集など一連の作業を経なければならぬ。

毎月の31日午後11時に発行している，本学科メールマガジンの，発行までのタイムテーブルの基本は，以下の通りである。

13日 ▲ 原稿執筆依頼
20日 | 締め切り
28日 | 原稿編集

29日 | 原稿校正依頼
30日 | 発行準備（原稿登録）
31日 ▼ 発行・エラーメールの対処

原稿編集では，執筆者から送られた原稿を集め，誤字脱字や文章のチェックなどを行いながら，レイアウトの成形を行う。

原稿校正依頼では，執筆者に校正を依頼する。

7.2 エラーメールの対処

登録時にメールアドレスは，構文チェックを行っているが，実際に存在しているものかはわからない。存在しないメールアドレスにメールを送信すると，User Unknownのエラーメールが返ってくる。登録時には存在していても，メールアドレスを変更すれば，そのアドレスは存在しなくなる。そこで，上記のエラーメールが2回続けて返送されてきた場合は，購読解除の手続きを行うルールとした。これは購読者にも登録時に知らせている。

7.3 発行準備

メールマガジン原稿のレイアウトは，一行全角36文字と決めた。また，メールでは通常使用しない機種依存文字などのチェックは，発行者が行うこととした。そのため発行者はテキストエディタなどを用いて，誤字脱字や機種依存文字のチェックを行い，執筆者らによる校正を終えたものを，原稿登録画面を用いて，発行日や携帯電話向けの原稿とともに，登録することとした。

携帯電話では受信可能文字数に制限があるため，携帯電話向け原稿の文字数は，受信可能文字数におさえることとした。そのため，メールマガジン原稿をウェブ化して，その文字数以内にまとめたものに，ウェブのURLを付加したものをつくることにした。

7.4 発行

本学科メールマガジンは2001年12月31日に第1号の発行をスタートに，毎月1回のペースで発行しており，2002年12月現在では第12号まで発行している。また，各号の発行部数の推移は

図 16 の通りで、徐々に増加してきている。

8. まとめ

このように、開発したシステムを運用し、それにより得られた知見で、運用の方法を工夫することで、学科メールマガジンを発行することができた。

9. 今後の課題

本研究で、本学科メールマガジンを発行すると

いうことは実現された。今後は本学科のみの運用ではなく、学内の他機関での運用を考える。また、利便性を追求すると次のことが考えられる。

原稿登録画面では、編集を支援していないので、原稿レイアウトの成形、原稿の一時保存、機種依存文字などの変換保存機能を整備する。携帯電話向け原稿を、自動生成する。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、指導して下さった原克彦先生、伊藤剛和先生には心より感謝いたします。

[単位：部]

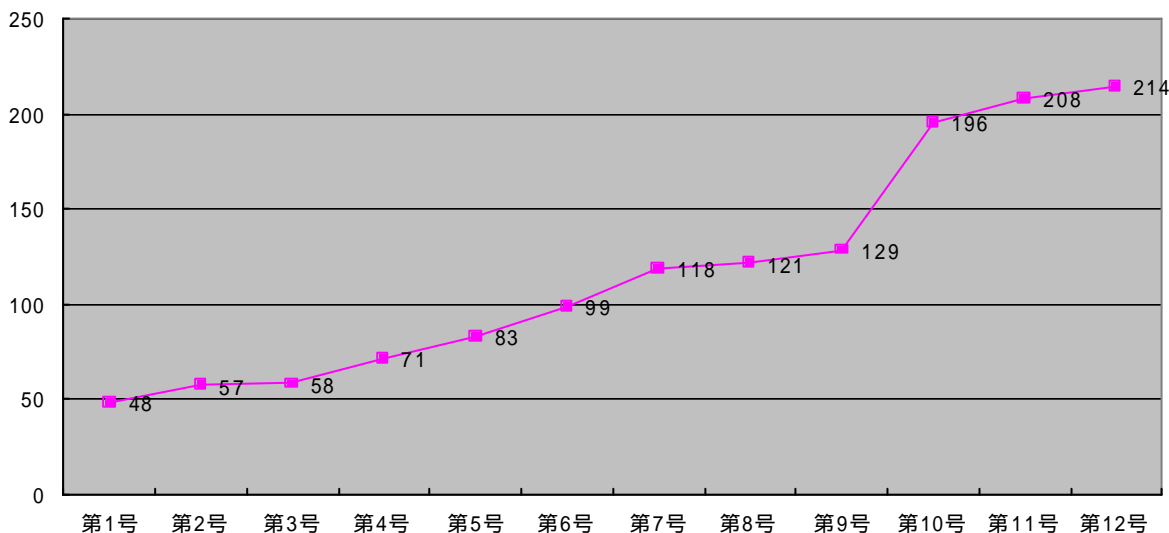


図 16 発行部数の推移

参考文献

「まぐまぐ」：<http://www.mag2.com/>
「melma!」：<http://www.melma.com/>
「Macky!」：<http://macky.nifty.com/>
「めろんぱん」：<http://www.melonpan.net/>
「カブライト」：<http://www.melmel.net/>
「めるめる・net」：<http://www.melmel.net/>
「小泉内閣メールマガジン」：
<http://www.kantei.go.jp/jp/m-magazine/>
「国会等の移転メールマガジン」：

http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/daishu/mailmag/mailmag_f.html
「農林水産省メールマガジン」：
<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>
「ODAメールマガジン」：
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/index.html>
「Kampo・メールマガジン」：
<http://kampo.go.jp/club/mm-top.html>
「Mail-Press」

<http://www.kyoikujoho.ne.jp/koudoku/index.html>
「総合的な学習 NEWS LETTER」
「EIGOMAIL-MAGAZINE」
<http://www.gks.co.jp/>
「NES 通信」
<http://www.nes.gr.jp/magazine.html>
「Edu Mail」
<http://www.mainichi.co.jp/digital/annai/index.html>
「for your future」
<http://www.edu21c.net/magazine.html>
「よみうり教育メール」
<http://www.yomiuri.co.jp/index.htm>
「大阪大学メールマガジン」：
<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/information/mail.html>
「アグネス e-レター」：
<http://www.my.heian.ac.jp/melmaga/>
「北陸大学 Mail マガジン」：
<http://www.hokuriku-u.ac.jp/koho/2nd/main/magazine.html>
「Let's Together!」：
<http://www.infosnow.ne.jp/SGU/ENT/melmaga/>
「神戸女学院大学」：
<http://www.kobe-c.ac.jp/ee/info/mein05.html>
「Kan-Dai Hot News!」, 「大阪明浄大学受験サポートマガジン」, 「関学受験生応援メールマガジン」：
<http://www.between.ne.jp/mldsv/>
「ASP で基本認証をする」：
<http://www.geocities.co.jp/SiliconValley/4334/unibon/asp/basicauth.html>